

Beyond testing, beyond limits, for a sustainable future together

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

2021年5月25日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

1. 中期経営計画 GLP2023
 2. 2021年3月期 連結決算概要
- Appendix

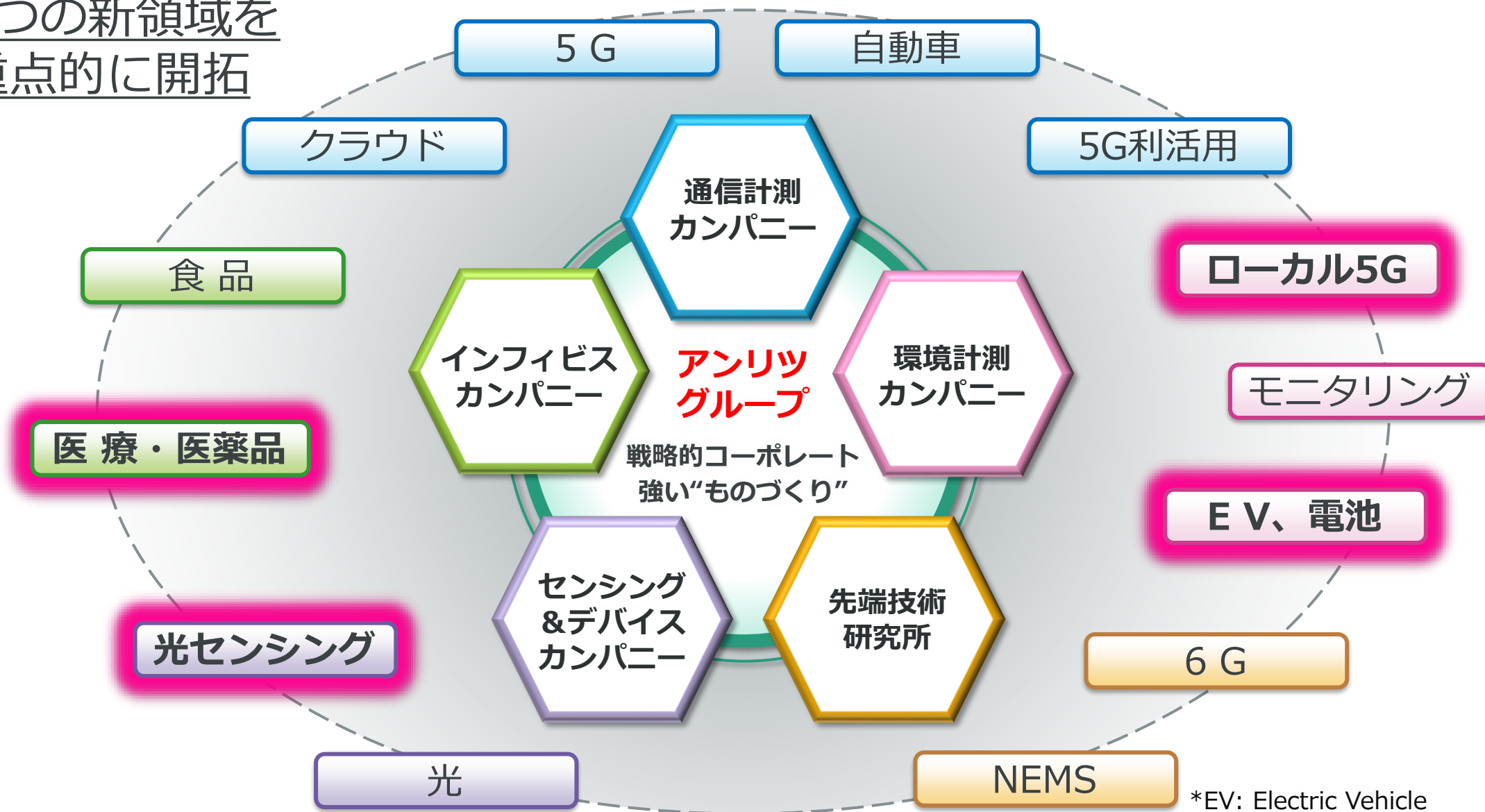
1. 中期経営計画 GLP2023

経営ビジョン：「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



1-2. GLP2023重点分野

4つの新領域を
重点的に開拓



*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

*EV: Electric Vehicle

*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems

1-3. 売上高・営業利益計画

指標		GLP2023		
		FY2020	FY2021	FY2023
売上高		1,059 億円	1,140 億円	1,400 億円
営業利益		197 億円	205 億円	270 億円
営業利益率		19 %	18 %	19 %
当期利益		161 億円	162 億円	200 億円
ROE		16 %	14 %	15 %
T&M 事業	売上高	748 億円	820 億円	1,000 億円
	営業利益	177 億円	185 億円	230 億円
	営業利益率	24 %	23 %	23 %
PQA 事業	売上高	214 億円	230 億円	270 億円
	営業利益	13 億円	18 億円	27 億円
	営業利益率	6 %	8 %	10 %

(参考) GLP2023想定為替レート： 1米ドル=105円、1ユーロ=125円

1-4. サステナビリティ目標 (SDGs)

E
環境

目標・取組

温室効果ガス削減に向けた 長期計画と取組

GLP2023:KPI

- 温室効果ガス（Scope1+2）：2015年度比23%削減
- 温室効果ガス（Scope3）：2018年度比13%削減
…2030年度で30%削減

自家発電比率の向上 (PGRE 30)

- 自家発電比率：13%以上
… 2030年ごろまでに30%程度まで高める

ダイバーシティ経営の推進

- 女性の活躍推進：女性幹部職比率15%以上
- 高齢者活躍推進：70歳までの雇用及び新処遇制度確立
- 障がい者雇用促進：職域開発による法定雇用率2.3%達成

S
社会

グローバルなCSR調達の推進

- サプライチェーン・デューデリジェンスの強化：
3年累積10社以上
- CSR調達に係るサプライヤへの情報発信2回/年以上、
教育1回/年以上

G
ガバナンス

グローバルなガバナンス力向上

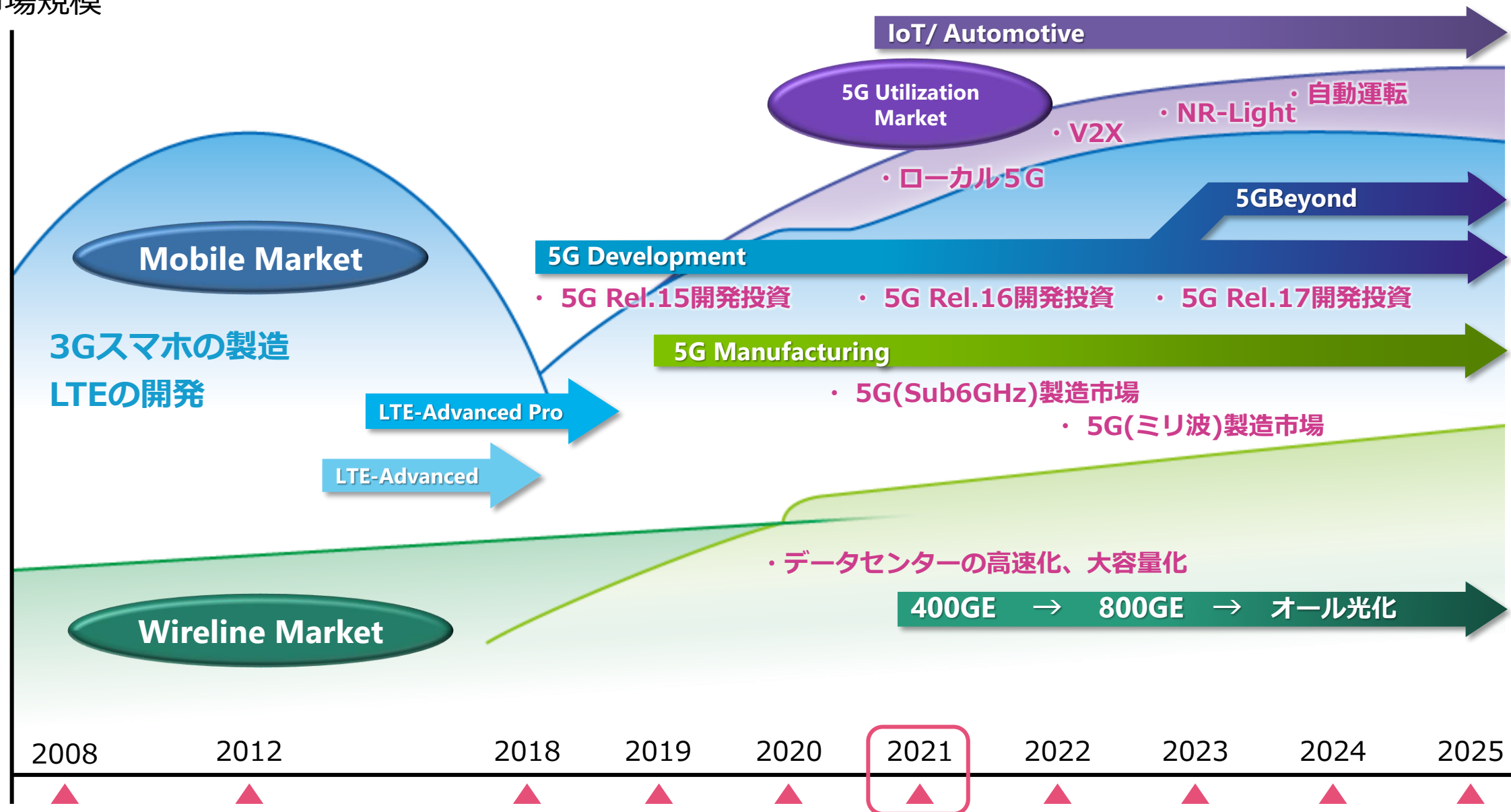
- 取締役会の多様性の推進、社外取締役比率50%以上

海外子会社の内部統制構築推進

- 全海外子会社が統制自己評価（CSA）の基準を満たす

1-5. T&M事業：計測市場トレンドと事業機会

市場規模

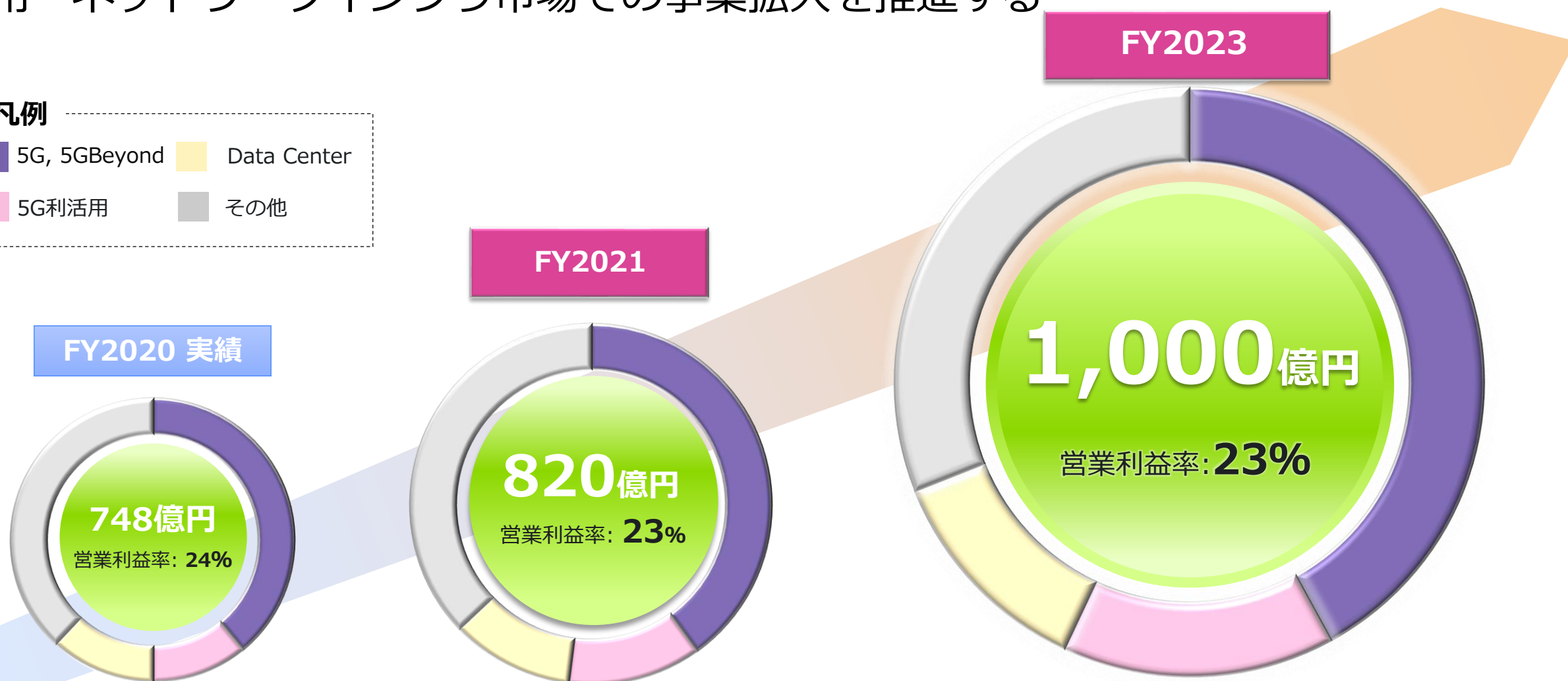


1-6. T&M事業：GLP2023売上高・営業利益計画

5Gピークに向けた3年間の需要をとらえ、スマホ・5G利活用・ネットワークインフラ市場での事業拡大を推進する

凡例

- 5G, 5GBeyond
- Data Center
- 5G利活用
- その他



グラフはイメージ

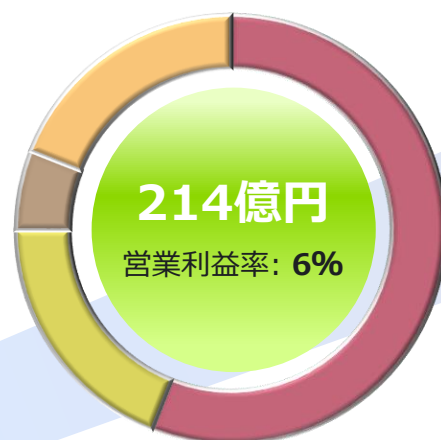
1-7. PQA事業：GLP2023売上高・営業利益計画

- ・お客様企業の重要課題を解消するソリューションの創造
- ・はかるを超える価値創造、世界各地ニーズに的確で迅速対応
- ・X線検査機の高度化、医薬品市場拡大と業務革新で利益体質

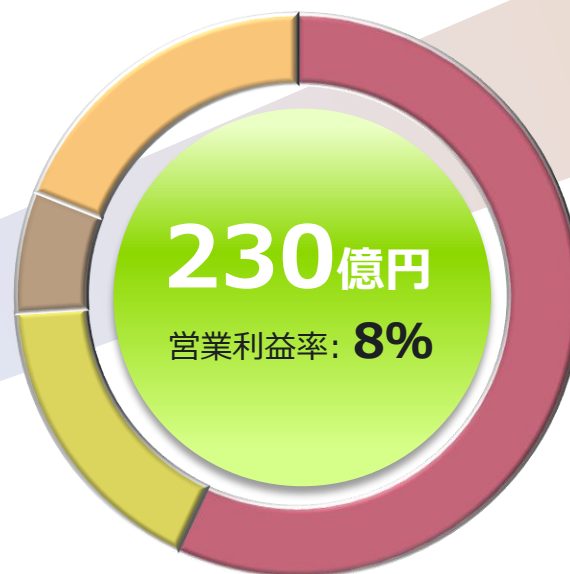
凡例



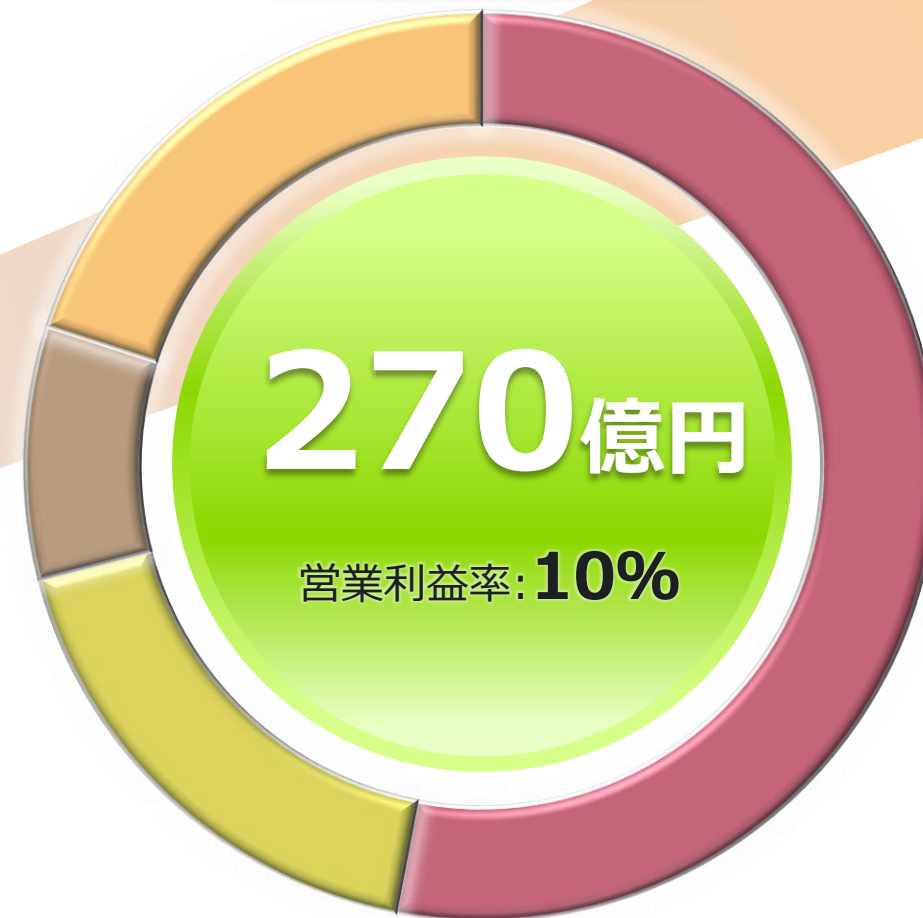
FY2020 実績



FY2021



FY2023



グラフはイメージ

2. 2021年3月期 連結決算概要

2-1. 事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場 : 5G、5G利活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス

(セグメント別売上比率) 2021年3月期 実績(連結) : 1,059億円

T&M 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 59%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 16%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 18%	アジア他 47%	米州 23%	EMEA 12%
--------	----------	--------	----------

T&M : Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

2-2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 売上微減も増益を確保

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	1,077	1,076	△ 1	△ 0%
売上高	1,070	1,059	△ 11	△ 1%
営業利益	174	197	23	13%
税引前利益	172	198	26	15%
当期利益	134	161	27	20%
当期包括利益	119	199	80	66%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

2-3. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ T&M : 5G製品の比率が上がり増益を確保

▶ PQA : 減収も営業利益は前年同期比同水準を確保

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	752	748	△ 4	△ 0%
	営業利益	151	177	26	17%
PQA	売上高	226	214	△ 12	△ 5%
	営業利益	13	13	0	4%
その他	売上高	93	97	4	5%
	営業利益	19	18	△ 1	△ 5%
調整額	営業利益	△ 9	△ 12	△ 3	-
合計	売上高	1,070	1,059	△ 11	△ 1%
	営業利益	174	197	23	13%

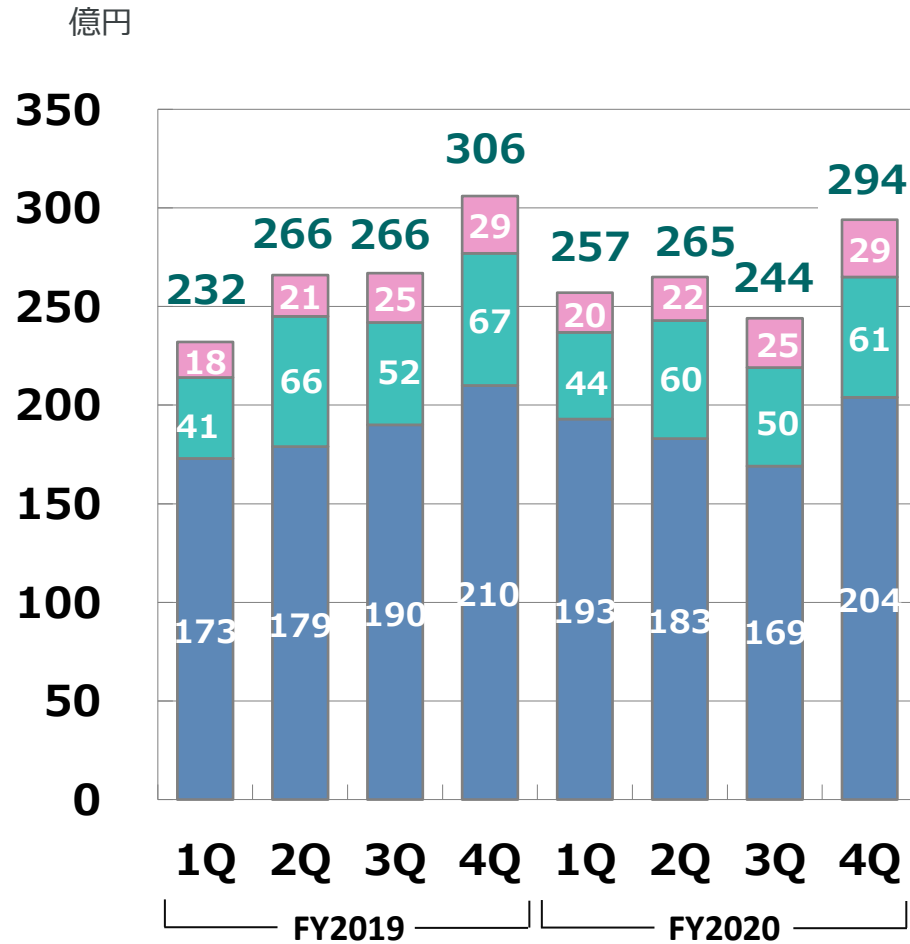
(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

T&M : Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

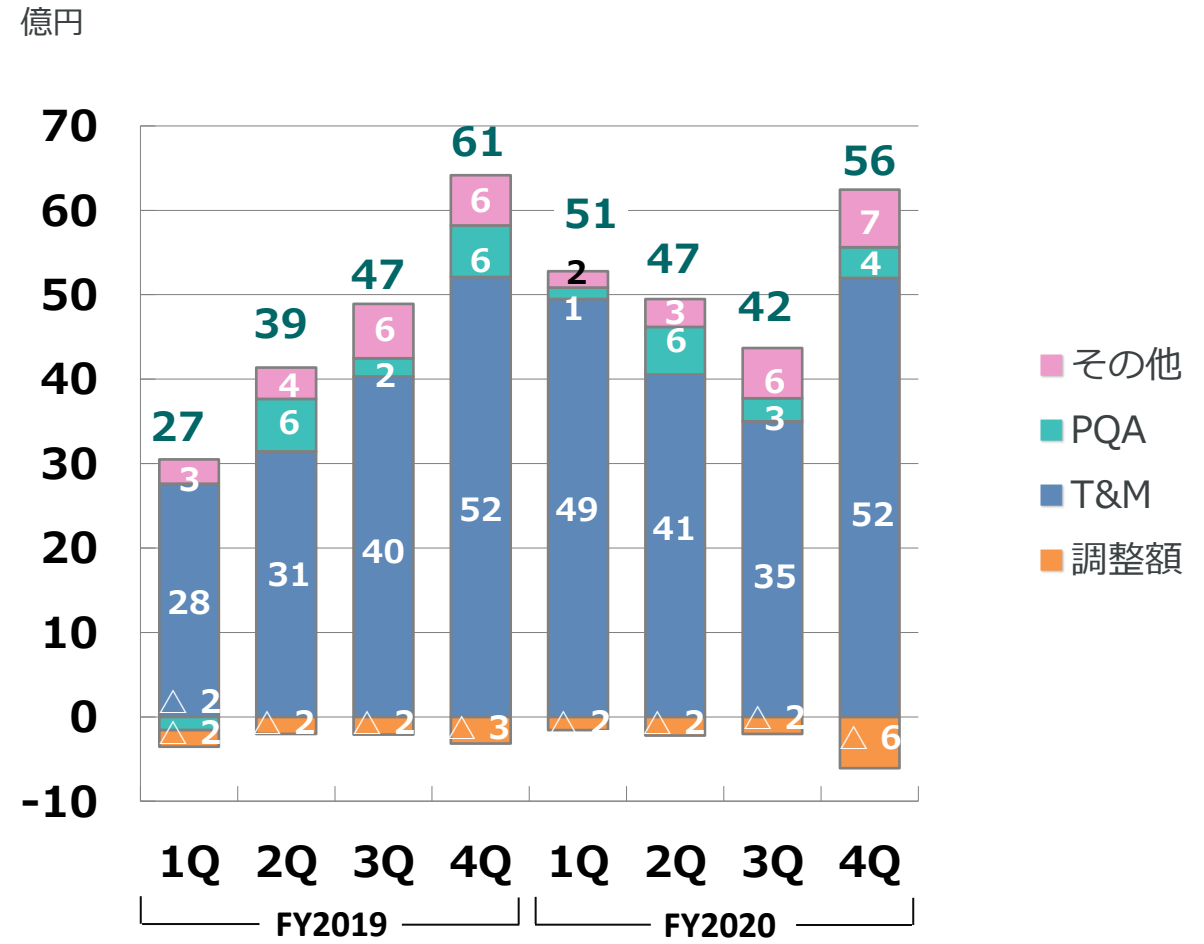
2-4. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 4Q(1-3月)営業利益率：連結19%, T&M25%, PQA 6 %



売上高

(注) 値はそれぞれで四捨五入



営業利益

■ その他
■ PQA
■ T&M
■ 調整額

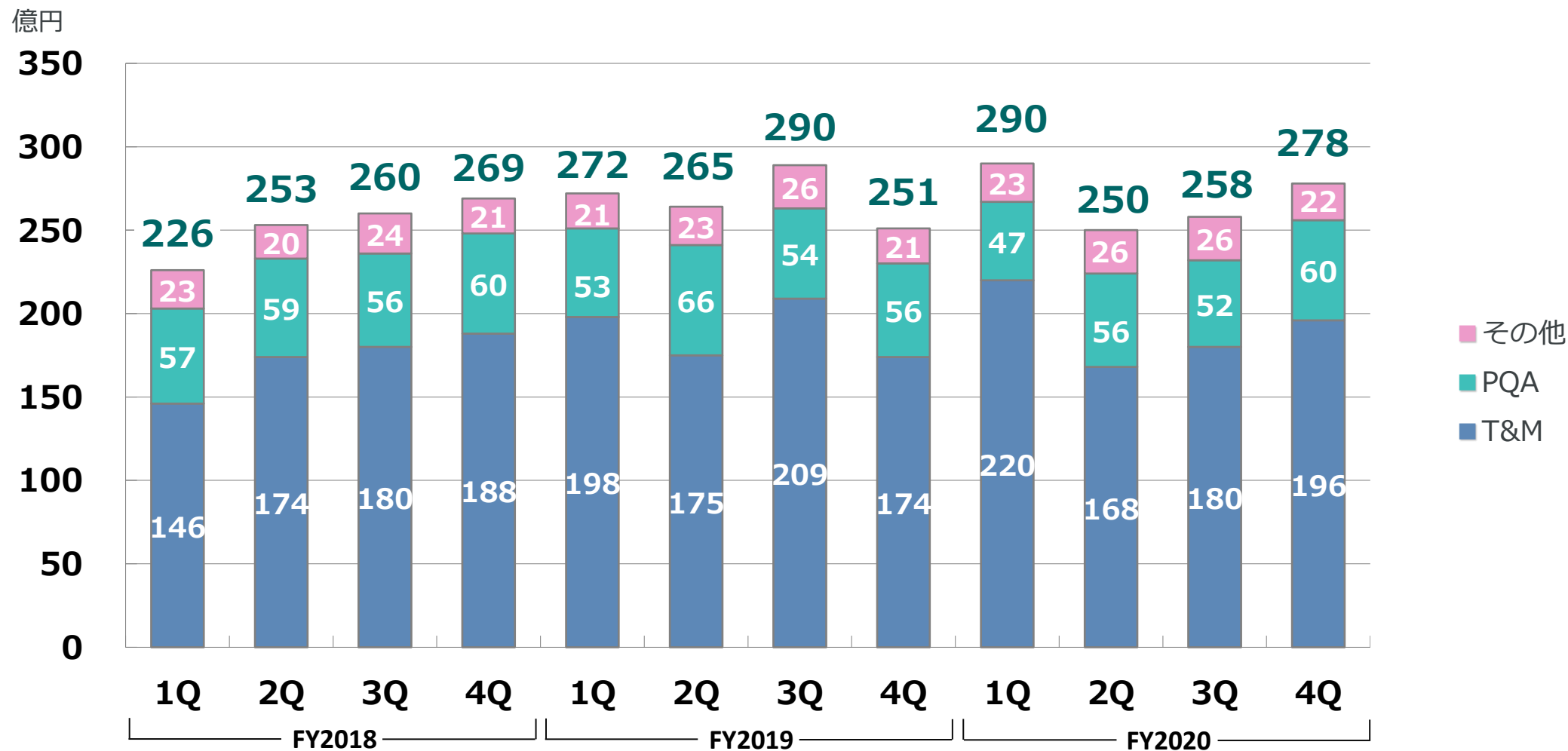
セグメント 2021年3月期（4月-3月）の状況	
 T&M ：5G商用化スケジュールおよびデータセンター高速化が順調に進展	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が順調に推移
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資拡大 日本は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で伸び悩み
アメリカ	5Gサービスの今後のエリア拡充に注視
 PQA ：食品市場では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う先行きの不透明感から一部の顧客が引き続き設備投資に慎重な姿勢	

T&M：Test & Measurement PQA：Products Quality Assurance

2-6. 受注高推移

▶ T&M：前年同期比13%増、前四半期比9%増

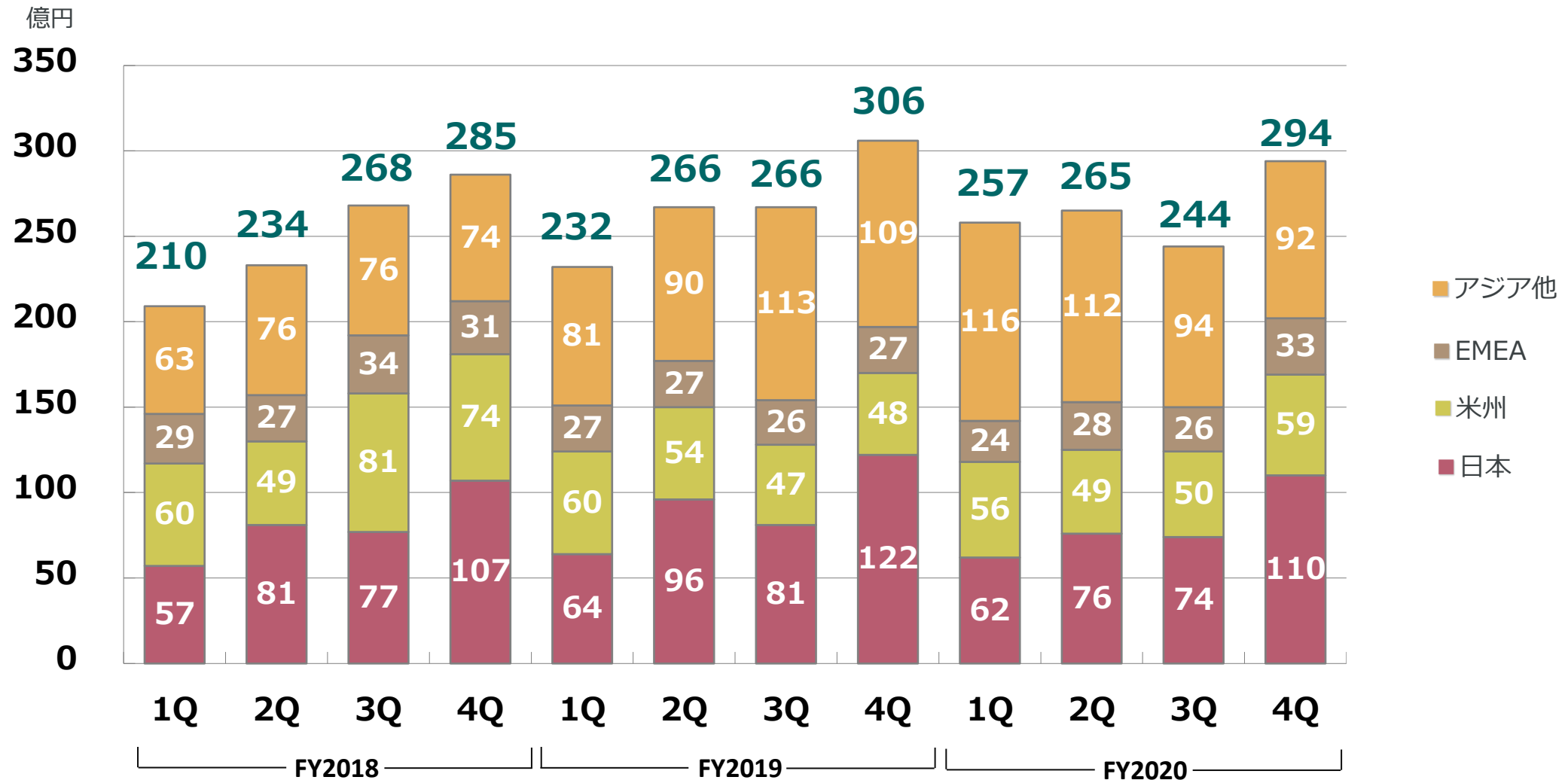
▶ PQA：前年同期比7%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-7. 地域別売上高推移

▶ アジアで5G商用化、データセンター関連の需要は順調



(注) 値はそれぞれで四捨五入

2-8. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率19.3%

FY2020（累計）

- ①営業CF： 205億円
- ②投資CF： △ 50億円
- ③財務CF： △145億円

フリーキャッシュフロー
（① + ②）： 155億円

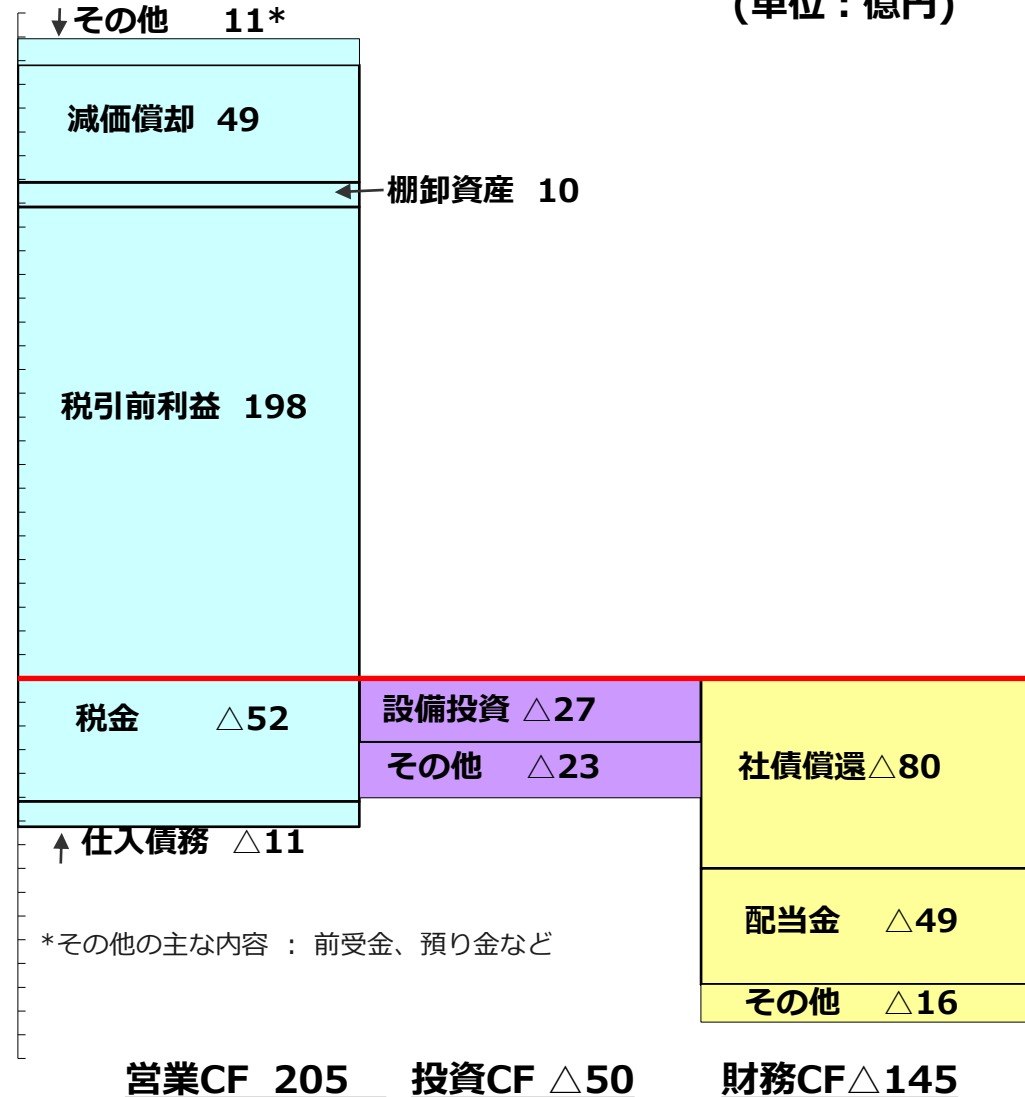
現金同等物期末残高
498億円

有利子負債高
58億円

（注）値はそれぞれで四捨五入

内訳

（単位：億円）



2-9. 2022年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 新型コロナウイルスの影響は残るが、5G関連需要の拡大を見込む

（単位：億円）

			2021/3期	2022/3期	
			前期実績	通期予想	前年同期比 増減額
					前年同期比 増減率(%)
売上高			1,059	1,140	81
営業利益			197	205	8
税引前利益			198	205	7
当期利益			161	162	1
T&M	売上高		748	820	72
	営業利益		177	185	8
PQA	売上高		214	230	16
	営業利益		13	18	5
その他	売上高		97	90	△ 7
	営業利益		18	12	△ 6
調整額	営業利益		△ 12	△ 10	2

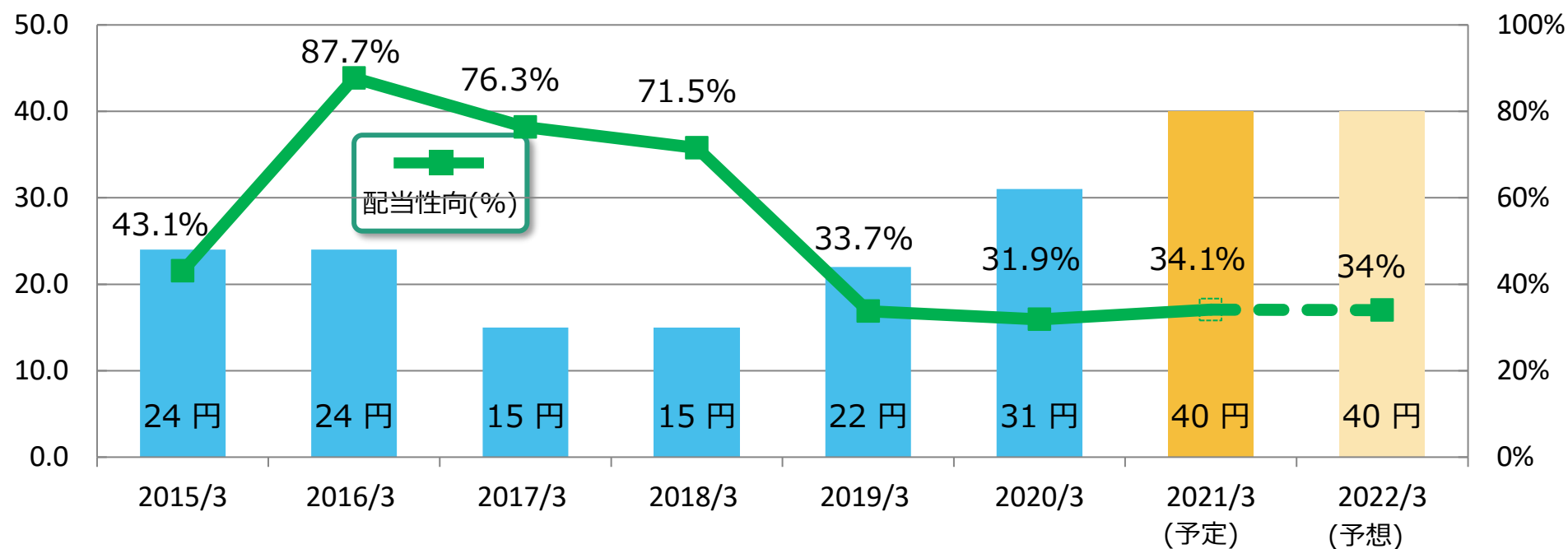
（参考）FY20 為替レート : 1米ドル106円、1ユーロ=123円
FY21 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

2-10. 配当予定、配当予想について

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE	ROE
2021年3月期（予定）	40円	161億円	34.1%	5.4%	15.8%
2022年3月期（予想）	40円	162億円	34%	5%	14%

円



Appendix

ビジョン

5Gで構築される通信社会を支えるリーディングカンパニーになる

計画達成に向けた方針

- 5G利活用分野とネットワークインフラ市場での事業比率を上げる
- 「測る」ツール提供型ソリューションから「測って解決する」価値提供型ソリューションへの変革を進める
- 成長分野（5GBeyond、自動運転、ORAN/IOWN)への投資を拡大する

ビジョン

**持続可能な未来へ向けて、世界中のお客様から
最も信頼される品質保証の First-to-Call カンパニーになる**

計画達成に向けた方針

- 「安全・安心の追求」、「生産性の向上と食品ロス削減」などお客様企業の重要課題を解消するソリューションを創造する
- “はかる”を超える価値創造で最も信頼される商品とサービスの提供、ローカライゼーションによる世界各地ニーズへの的確で迅速な対応
- X線検査機の高度化による高付加価値ソリューションの拡大、重点分野の医薬品市場のグローバル拡大と業務革新により利益体質強化を図る

AK Radio Design株式会社を共同出資で設立

■ 設立会社の概要（予定）

- **会社名：AK Radio Design株式会社**
- 所在地：神奈川県厚木市（アンリツ本社地区内）
- 設立日：2021年6月
- 出資比率：アンリツ株式会社 50%、
株式会社構造計画研究所 50%

Anritsu Advancing beyond

通信計測機器・実測サービス



構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

シミュレータ・解析サービス

カバーエリア設計・評価サービス

通信エリアの電界強度測定



ML8780A/81A エリアテスタ

免許申請用電力分布計算



ネットワークの遅延測定・障害解析サービス

ロボットのリモート操作の為の遅延時間を測定等



MT1000A ネットワークマスタ プロ

ネットワーク
シミュレーション

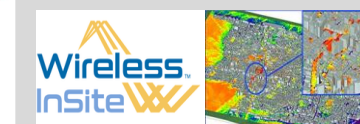
QualNet®

電波干渉シミュレーションおよび測定サービス



MS2090A フィールドマスタ プロ

電波伝搬シミュレーション



計測器による実測サービスとシミュレーションによる解析サービスをワンストップで提供

